令和２年度第1回仙台市放課後子ども総合プラン運営委員会会議録

１　日時　令和３年１月28日（木）10：00～

２　会場　上杉分庁舎子供未来局第一会議室

３　委員出席数　委員定数10名
出席委員８名、欠席委員２名
（1）出席委員　梨本雄太郎委員長、長内美香子副委員長、遠藤源太郎委員、小岩孝子委員、庄子和孝委員、筒井幸子委員、堀越祥浩委員、三浦和美委員
（2）欠席委員　佐藤亜矢子委員、熊谷礼子委員

４　会議録署名委員　梨本雄太郎委員長、遠藤源太郎委員

５　報告事項
（1）　新型コロナウイルス感染症を踏まえた事業の実施状況と今後の課題について

６　議事
（1）　新型コロナウイルス感染症を踏まえた取り組み状況について（情報交換と意見交換）

７　閉会

議事要旨

１　開会
２　子供未来局長挨拶
３　委員紹介
４　報告事項
（1）放課後児童クラブ及び放課後子ども教室における現状と課題について
資料1～3に基づき、児童クラブ事業推進課長及び生涯学習課長より説明。

＜質疑応答＞【要旨】

堀越祥浩委員
（質問要旨）
・放課後児童クラブにおける障害がある児童の受入れについて、放課後等デイサービス等の関係機関との情報共有を行っているのか

（回答要旨）

児童クラブ事業推進課

・民間も含めた児童クラブ、放課後等デイサービス、放課後子ども教室の三種類の事業者が任意で集まる「子どもの放課後支援をすすめる会」には、児童クラブ事業推進課、生涯学習課、健康福祉局の担当が出席し情報共有を行っている。

・個別のケースについては、学識経験者等で構成する会議の結果を踏まえ、必要に応じて保護者と直接お話しする機会を設けている。

庄子和孝委員

（質問要旨）

・新型コロナウイルス感染症対策について、職員へ研修や教育等ついてどのような取り組みを行ったか。

（回答要旨）

児童クラブ事業推進課

・子供未来局の所管施設の職員を対象に、新型コロナウイルスに対する知識と感染予防対策について、専門家の方に講演をいただいた。また、講演のＤＶＤを各施設へ貸し出し、職場内研修を行った。

生涯学習課

・放課後子ども教室に対し、感染予防に関するパンフレットを配布した。また、個別の相談に応じたり、各教室に訪問した時にアドバイスを行ったりした。

５　議事【要旨】

（１）新型コロナウイルス感染症を踏まえた取り組み状況について（情報共有と意見交換）

梨本雄太郎委員長

○所管課の役割について

・コミュニティ・スクール導入にあたり、学校と地域の関係改善をますます図っていく必要があるのではないか。

○コロナ禍におけるあり方について

・大学の講義でも、確かにオンラインではできなかったこともあったが、逆にオンラインでむしろ例年より学生の理解が深まったこともあった。

・コロナが終息した後に何事もなかったかのように元に戻るではなく、むしろ今回こうやったことの中で得られたものを、今までよりもいい社会を作っていくためのきっかけにするぐらいのつもりで考えていきたい。

・教育や福祉、社会等、様々な事業は、各々の領域だけで成り立つものではなく、他の領域の異なる考え方も受入れ、許容していくことが大切だと感じている。そのためには、丁寧な意見交換や行政の関わりが重要である。各事業や行政の関係者、保護者等の子どもの周りにいる大人たちが、その時々の課題に対し丁寧に向き合う余裕を持ってほしい。

長内美香子副委員長

○感染防止策を踏まえた上での「放課後子ども教室」運営について

・マスク着用での活動の難しさ（自由遊び等）を実感している。

・体温チェックや事後消毒の徹底を継続し、感染予防に努めている。

・学校を活動場所としていることから、学校の理解を得る難しさを感じている。

三浦和美委員

○児童クラブ、放課後子ども教室のあり方について

・行政内の縦割を超えて子どもの居場所づくりを考えていく必要がある。

○コロナ禍のあり方について

・保育士、幼稚園、小中学校の教諭養成にあたり、子ども達と触れ合う場は実践力を養うために大変貴重で重要な機会であると捉えている。この状況がいつまで続くのかが心配。

・研修会の開催方法として、２００人程度ならオンライン講義が可能。児童館の現場の先生方も、リモートではあるが、交流しながら学んでいくことで得られる知識や理解の深さがある。人と話す重要性に着目し、オンライン研修等も必要ではないか。

小岩孝子委員

○放課後子ども教室の運営について

・学校としては学校教育が第一。放課後子ども教室を運営するには、常に学校との話し合いが必要。より良い関係を築くためには相互の理解・協力を求める姿勢が大切。

・行政が必ずしも縦割りなのではない。放課後子ども教室に関しては、連携してサポートしてもらっていると感じている。

○児童クラブの運営について

・小学校の一斉休校の期間中に小学校で預かりを実施したことは、学校の現場と児童館の現場を繋いだ点で、行政の縦割りを超えていたと感じている。

・活動を全て自粛するのではなく、感染対策を講じながら出来る活動を行っていくことが大切。

堀越祥浩委員

○運営側の立場から

・児童館や児童クラブは、むしろ三密を大切にしてきていた場所。今後、子ども達にどのよ

うな影響を与えるのかを心配している。

・児童館や放課後子ども教室と行政の連携が取れていることが大切。児童館や放課後子ども教室で対応が難しい部分は、行政が積極的に関わっていく等、現場と行政で役割を分担しながら連携して対応していく必要がある。

庄子和孝委員

○感染症対策について

・子ども達が正しく感染予防について理解し、実践するためには、職員が新型コロナウイルスに対する正しい知識と理解を深めることが重要である。

○子どもたちを取り巻く社会のあり方について

・リモートが主になっているので、だからこそ交流が必要と実感しているが、なかなか社会が許さない状況にギャップを感じている。

遠藤源太郎委員

○行政の立場から

・小学校の臨時休校が決まった際に、限られた時間の中で教育委員会と何度も話し合いを重ね、小学校での子ども達の預かりを実施した。小学校での預かりは、全国的にも稀なケースであり、児童館での三密を防ぐという意味でも非常に有難かった。

・もともとコロナ前から課題として認識していたことが、コロナで更にクローズアップされたと感じている。ICT 化も含め、行政として考えていかなければならない。

筒井幸子委員

○行政の立場から

・コロナ禍において、学校教育が優先という中で隙間を縫うように生涯学習事業を行っている向きはある。

・様々な課題があぶりだされたこと、学校現場と生涯学習の現場のすれ違いについてはしっかり認識し、改めるように支援していく。

・三密回避と積極的な交流、このバランスを取りながら今後のあり方を検討していきたい。

7　閉　会

以上

会議録署名委員　梨本　雄太郎　印

会議録署名委員　遠藤　源太郎　印